

地域を守る存在として

消防士と一緒に地域の安全を守ってくれている消防団員。火事や台風などの災害が起きたときに駆け付けてくれます。そんな消防団員として活躍されている万呂分団の浅里さんにお話を伺いました。



初めて現場を経験して
万呂分団は現在41人の団員がいます。万呂分団の場合は4班に分かれており、訓練は月替わりに班ごとで、近くの河原で行っています。私が初めて出動したのは火事の現場。そのときは何もできなかったです。緊急事態な

オフも充実
消防団に入団して、人付き合いの幅が広がりました。農家の人がいけば、電気関係

入団のきっかけ
消防団に入団して6年目。きっかけは万呂の祭り（万呂獅子舞保存会）のメンバーから誘われたことです。祭りのメンバーの多くが消防団に入っており、何度か誘われるうちに、地域のために活動をしていくために消防団に、自分もなりたいなと思い入団を決めました。



万呂分団 浅里 昌宏さん

ので当然ですが、現場の緊張感がすごかったのを覚えています。
これまで私が出動した回数は6回ほどで、火事現場での消火活動や台風の際はポンプ車で水の吸い上げに行きました。仕事などの都合で出動できないこともあります。現場では分団長や消防本部の指示に従い、ホースを持ったり、暗い時間帯であればライトを照らしたりしています。何度経験しても、一つ一つの現場が終わるたびにホッとします。そして、日頃の訓練の大切さを実感します。



特集

大切なものを守りたい

消防団を知っていますか。常勤の消防士とは異なり、他に本業を持ちながら、火災や災害発生時には自宅や職場から現場へ駆け付けて消火活動や救助活動を行い、平時には防火訪問や救命講習などで活躍する人たちです。今月号では、消防団員へのインタビューを通し、その活動内容や魅力について紹介します。

地域での助け合い
消防団は、「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という郷土愛と奉仕の精神から生まれました。地域住民にあって、防災のリーダーとして様々な活動を行っています。



消防団長 岩間 秀幸さん

- 消防団の活動
- 火災や災害発生時
消火活動、地震や風水害といった災害発生時の救助・救出、警戒巡視、避難誘導、災害防御等
 - 平常時
 - ・地域の防災リーダー 幼稚園や小学校等への防火指導、救急救命講習、広報活動等
 - ・地域の安全パトロール 年末警戒等
 - ・定期訓練 消火訓練、ポンプ取扱訓練等

地域に欠かせない存在
市内には、31分団（女性分団・音楽隊含む）に、消防士の6倍以上にあたる958人の消防団員が所属しています。
昨年1年間に市内で発生した火災件数39件のうち、20件で消防団が出動しました。消防士と消防団員、両者の連携によって、地域の安全は守られています。
消防団の強みは、その地域に居住し、地域のことを熟知していることです。火災や災害時には、地域に密着した効果的な消火活動・救助活動を行うことができます。そして、そのための訓練や備品の管理などを行っています。
消防団は、地域にとって欠かせない存在です。自分たちの地域や家族など、身近な存在を守るために、仲間との絆を深めながら日々活動しています。



建築関係の仕事をしている人もいます。異業種の方との交流が増えたことで、色々な話を聞けます。
プライベートでは、先輩方とよく一緒に釣りに行き、釣り方など色々教えてもらって



先日、消防団員4人で行った釣りの様子

地域のために
先輩からの言葉で印象に残っていることは「平日でも無理せずに来れる範囲で大丈夫。そのために何十人もいてる。」と言われたことです。自分のできる範囲でしたらいいんだと安心しました。もちろん大変だと思うこともありますが、地域のためにこれからも精一杯頑張りたいです。

団員の頑張りを応援!

浅里さんが務めている会社の
中田社長にお話を伺いました。



中田 吉昭 社長

地域を守るため体を張って、時には危険を伴う消防団の活動をしている社員がいることに喜びを感じます。また、地域のお役に立つ、信頼されることというのは弊社の企業理念にも掲げていますが、とても大切なことだと思っています。消防団の活動をこれからも応援したいです。

女性分団による、災害に強いまちづくり

消防団には、現在 55 人の女性団員がおり、女性のみで組織された女性分団もあります。子供たちに防火指導や高齢者宅への防火訪問、救命講習の普及活動などを行っています。今回、女性分団に入団されている植本さんと濱地さんにお話を伺いました。

子供と接するのが好きで

平成 20 年に女性分団の立ち上げ当初から参加しているので、今年で 15 年目になります。子育て支援ボランティアに参加した時の仲間から女性分団の話聞き、子供たちへの防火啓発とか楽しそうだなと思いい入団を決めました。

消防団を知っていくうちに頑張りがたくなっていく

入団当初は田辺消防署に行き、定例会に参加したり、講習を受けたりしました。消防団のことを知っていくにつれて、「頑張らない」という気持ちが芽生えてきたことを覚えています。

職場では、窓口や事務の仕事をしています。消防団の活動には、主に仕事が休



植本 美紀 さん

みの時に参加しています。活動日が決まっている場合は、有給休暇を取って参加することもあります。

女性分団はここ田辺消防署（現扇ヶ浜分署）から始まりました！



いろんな世代の方と活動するのが楽しい

職場と家の往復で、何かないと家に閉じこもりがちなのですが、外に出るきっかけができるのがうれしいです。

救命講習では、講習内容をもっと分かりやすく伝えたいと思って、他の自治体の女性分団の活動を参考にしたりしています。新しいことを見つけたら、分団内で共有し、小道具を作ったり、みんなで練習したり。いろんな世代の人たちと活動できるのは楽しくて、入ってよかったなって思っています。

もしもの時に

何もできない自分がイヤ

もし道で倒れている人がいた時、家族が倒れた時に、何もできないままではイヤだなと思っていました。

3 年前に市役所で採用され、新人研修で女性分団の存在を知りました。入ったばかりで職場と家の往復だけだったし、何かを始めたい、地元の知り合いを増やしたいと思いい入団しました。応急手当普及員になるために、昨年研修を受けました。



濱地 美帆 さん

ありました。おかげで当日は子供たちにとっても楽しく教えることができました。また、私には 0 歳の甥がいますが、小児救命について学んだことで、「これで何があっても動ける！」と、自信が付いたように思います。

一緒に頑張りたい

活動には自分の都合の合う時に参加できるので、仕事との両立が大変だと感じたりはしていません。

私は人見知りですが、最初に入団希望の電話を掛けた時は勇気がいりました。でも実際に入団すると、みんな優しく、本当に楽しく活動できています。リフレッシュにもなりますよ。



夫は私の活動を理解してくれています。カッコいいと言ってくれました！

地域で応援しています

災害の際には「自助・共助・公助」が重要です。消防団は「誰かに守ってもらう」ではなく「自分たちが守る」意識で地域のために活動しています。そんな消防団を地域も応援しています。

消防団は利用証を応援店に提示！



現在、72 軒が応援店に登録しています。趣旨にご賛同していただければ消防本部までご連絡ください。

消防団応援の店とは
地域防災の中核として活躍している消防団を地域全体で応援する体制を作るため、ご賛同いただいた店舗等の協力によって、消防団員やその家族を対象に、割引等のサービスを提供しています。

地域のためにありがとう！

感謝の声 01



消防団応援の店に登録
後藤 与一 さん

消防団の活動を応援しています。ドリンク 1 杯サービス！

救命講習をしてくれてありがとう！

感謝の声 02



衣笠中学校 2 年生
鈴木 陵 さん

救急講習を初めて受けました。AED の使い方や心肺蘇生法など応急手当の大切さを知ることができました。女性分団さんが熱心に教えてくれて、とても分かりやすかったです。

女性分団による 応急手当普及啓発

消防本部が実施する救命講習に参加し、小中学校の生徒等に向けて、人口呼吸や心臓マッサージ、AED の使い方等について指導活動を行っています。



私たちと一緒に身近な存在を守りませんか

★報酬・費用弁償あり！

(年報酬に加えて災害活動！日当たり 8,000 円～)

★補償制度（公務災害補償）もしっかりしている！

(療養補償、休業補償、障害補償、介護補償など)

★退職報償制度あり！

消防団や消防団応援の店にご興味のある方はこちらへ

田辺市消防本部 消防総務課 消防団係 ☎ 0739 (26) 9953

📄 <https://www.city.tanabe.lg.jp/shoubo/shouboudan/index.html>

